

G20 外相および開発大臣関連会合

6月28日(月)～30日(水) 伊バーリ、マテーラおよびプリンディジ

inout
&

茂木敏充外務大臣は、6月28～30日、イタリアで開催された G20 外相および開発大臣関連会合に出席した。

外務大臣会合では保健、気候変動、持続可能な開発、貿易投資など幅広い領域について多国間主義・グローバルガバナンスの在り方などについて率直な意見交換が行われた。アフリカに関するセッションでは、茂木外相から、来年チュニジアで開催予定のTICA DB8に向け、関係国・機関と連携しながら、躍動するアフリカの実現に貢献していく旨表明した。

また茂木外相は、開発大臣会合においてODA以外の公的資金の流れを含めて可視化する「TOSSD(持続可能な開発のための公的総支援)」の議論開始を提起したほか、人道支援に関する閣僚級イベントでは、ワクチンを各国国内で接種現場まで届けるためのロジスティクスの支援である「ラスト・ワン・マイル支援」を進めている旨発言し、国際機関との間で引き続き連携・協力していくと述べた。



茂木外相を出迎える開催国イタリアのマイオ外務・国際協力相

茂木外務大臣のバルト三国訪問

6月30日(水)～7月3日(土) エストニア、ラトビア、リトアニア(訪問順)



ラトビアで友好100周年を記念する植樹を行った茂木外相(左)とリンケービッチ外相(中央)

茂木敏充外務大臣は、6月30日～7月3日、バルト三国を訪問し、外相会談および首相表敬を行った。日本は今年、エストニアおよびラトビアと友好100周年を迎え、初の外相訪問が実現した。(リトアニアは来年が友好100周年、外相訪問は15年ぶり)。いずれも基本的価値を共有するパートナーであり、日本と「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け幅広い協力を進めることで一致した。

またリトアニアでは、茂木外相が「命のビザ」で知られる杉原記念館を訪問した。